

次の からのア、イの () の中に、「しかし」「だから」のうち、あてはまる言葉をそれぞれ書き入れましょう。

() の下の文をよく読むことがポイントだよ！



雨がふりそうだった。

ア () **だから** () かさを持って出かけた。
イ () **しかし** () かさを持たずに出かけた。

ぼくは、おなかがついた。

ア () **しかし** () 食べるのをがまんした。
イ () **だから** () たくさん食べた。

あれあれ、次は () () の下の文は同じだね。
下の絵の人の気持ちと合うようにつなぎ言葉をえらんでね。



ぼくは、がんばって勉強した。

ア () **だから** () 九十点だった。
イ () **しかし** () 九十点だった。

やった。九十点取れてうれしいな。



九十点しかとれなくてくやしいな。



私は、九時に家を出た。

ア () **しかし** () 集合時間に間に合った。
イ () **だから** () 集合時間に間に合った。

ちこくするかと思った。
ぎりぎり間に合った。



ゆとりをもって早く出てよかった。



言語

つなぎ言葉

名前

こたえ

【1】意味がよく分かるように、（ ）の中に「」の「」のうちに、あてはまる言葉を書き入れましょう。



ぼくは、急いでいた（ **ので** ）　　、走って帰った。

ぼくは、つかれていた（ **のに** ）　　、なかなかねむれなかった。

旅行に持っていく物をメモしておいた（ **ので** ）　　、わすれ物をしませんでした。

ノートを買いに出かけた（ **のに** ）　　、店は休みだった。

ピアノをいっしょうけんめい練習した（ **のに** ）　　、発表会で失敗してしまった。

【2】次の　　の文を、下の　　の中から接続語を選んで　　の中に書き入れ、二つの文にしましょう。

駅まで走って行った。（ **しかし** ）　　、電車に乗りおくれってしまった。

今日は天気がい。（ **しかも** ）　　、あたたかい。

つなぎ言葉	説明	例文
（は文を一度切った後でつなぐ場合） （は文を切らずにつなげる場合）	説明	例文
だから・それで・そのため ので・　　から	前の文を理由とする文が次に来ることを表す。	とてもつかれた。だから、少し休んだ。 とてもつかれたので、少し休んだ。
しかし・それでも・でも けれども が・　　けれど・　　のに	前の文と反対になるような文が次に来ることを表す。	雨が降り出した。しかし、試合は続けられた。 雨が降り出したが、試合は続けられた。
また・そして・なお しかも・それから し	前と後ろの文が、同じようにならんでいることを表す。	あの人は本をよく読む。また、運動もよくする。 あの人は本をよく読み、運動もよくする。
それとも・あるいは または	前の文と後ろの文をくらべたり、どちらかを選んだりすることを表す。	りんごを食べますか。それとも、みかんにしますか。
つまり・要するに・例えば	前の文についての説明を表す。	私のたん生日は、三月七日だ。 つまり、ちょうどあと一ヶ月後だ。
では・ところで・さて いっぽう	話題を変えることを表す。	これで、ニュースを終わります。 さて、次は天気予報です。

次の からの文の、——のつなぎ言葉と同じ働きをする言葉を、あとの□の中から選んで（ ）の中に書きましょう。

前田さんは、本が大好きだ。それで、よく図書館へ行く。
（ **だから** ）

ぼくは、おかしをたくさん食べた。それから、ごはんもたくさん食べた。
（ **そして** ）

父とグローブを買いに行った。しかし、気に入ったものは見つからなかった。
（ **けれども** ）

さて、話は変わりますが、好きな食べ物は何ですか。
（ **ところで** ）

先生は、電車で帰りますか。それとも、バスで帰りますか。
（ **あるいは** ）

そして
けれども
あるいは
ところで
だから

（ ）に言葉を入れたら、声に出して読んでみよう。
□の中の言葉以外にも、同じ働きをする言葉があるよ。
考えてみよう。



言語

こそあど言葉（指示語）

名前

こたえ

	ものごと	場所	方向	様子
こ	これ この	ここ	こちら (こっち)	こんな こう
そ	それ その	そこ	そちら (そっち)	そんな そう
あ	あれ あの	あそこ	あちら (あっち)	あんな ああ
ど	どれ どの	どこ	どちら (どっち)	どんな どう

「この」「その」「あの」「どの」などのように、「こ・そ・あ・ど」で始まり「もの(人)」「場所」「方向」「様子」などを指し示すはたらきをする言葉を『こ・そ・あ・ど』言葉といっています。

次の会話に合う「こそあど言葉」を入れましょう。

(この) おかしは、手作りですよ。いかがですか。

話し手の近くにあるものを指しています。



(あの) お月さま、大きいね。

話し手からも相手からも遠くにあるものを指しています。



(どう) ころんだの？

運動場です。

指し示す場所がはっきりしていません。



一輪車は、(こう) やって練習すれば上手になるよ。

話し手の近くの様子を指しています。



言語

こそあど言葉（指示語）②

名前

こたえ

☆「こそあど言葉」には、いろいろなはたらきがあります。

ど	あ	そ	こ	
どの どれ	あの あれ	その それ	この これ	ものごと
どこ	あそこ	そこ	ここ	場所
どちら (どっち)	あちら (あっち)	そちら (そっち)	こちら (こっち)	方向
どう	あんな	そんな	こんな	様子
				使い方
指し示すものがはっきりしない場合				話し手の近くにあるものを指す場合
話し手からも相手からも遠くにあるものを指す場合				相手の近くにあるものを指す場合
				話し手からも相手からも遠くにあるものを指す場合

やってみよう

☆ 使い方を考えて、「こそあど言葉」を（ ）に書きましょう。

(あの) (その) (あっちの、そっちのなどでもいいですね) お店にも行ってみようよ。

(この) 服は、いくらですか？

(それ) は、三百円です。

(どの) おもちゃにしようかな？ ※はっきりきまっていない場合